



高田島の獅子舞

〔第一区〕

風流はもと「ふうりゅう」と読み、雅やかなもの・風情のあるものの意であるが、中世以後、「ふうりゅう」と訛って、きらびやかな装飾をほどこした作り物をさすようになり、さらに華やかな衣装をつけた踊り（集団舞踊）や囃子をもいうようになった。

しかも単に華やかなことだけでなく、この世に執着を残して死んだ者の怨霊が、種々の災害をもたらす御霊信仰と結びついているところに特色がある。そのため、華やかに着飾った踊り手が行列をなし、にぎやかな囃子につれて激しく踊っては、怨霊を巻き込んで村境に送り追い払うことが行われるようになり、風流は、この華やかさと御霊信仰の二つの要素を持って発展分化していった。

風流系統として、念仏踊り、盆踊り、太鼓踊り、獅子舞などに分類されるが、県内に最も古い分布の多いのは獅子舞である。西日本では素面で演じるのに対して、関東以北では獅子頭をつけて踊ることが多い。これを「風流の獅子」、あるいは一人がひとつの頭をつけることから「一人立ちの獅子」といって、神楽の二人立ちの獅子と区別している。

県内の多くは、男獅子二匹・雌獅子一匹の三匹で踊るところから三匹獅子舞と呼ばれることが多く、川内村においても昭和五十三年四月、県重要無形民俗文化財に指定された四組の一人立ち風流獅子舞が伝えられている。

この獅子舞は、高田島・中島・西山・坂シ内の四地区に